

2013年度 年度計画

第1 国際的に通用する人材の育成

1 高度なコミュニケーション能力の養成

(1) 複数外国語運用能力の獲得

- 新たにロシア、中国、イスパニアの各学科において、専攻語学のガイドラインを策定する。
- 少人数クラス化後の専攻語学について、学生意見などを踏まえ、授業のさらなる充実方策を検討する。
- 英語学習のためのインターネット上の学修環境の充実を試行的に実施する。

(2) 幅広い教養の修得

- 日本語学課程や日本文化などの実施体制を強化するとともに、通訳翻訳、異文化コミュニケーション、情報リテラシー、経済・経営分野などの教育体制の強化を検討する。
- 授業において、地域団体やジャーナリストなどの学外者を招へいするゲストスピーカー制度を試行的に導入する。
- 学生の図書館利用を促進するとともに、図書館ロビーのリニューアル方針を検討する。

(3) 高度な外国語運用能力と幅広い知識に基づく実践的な発信力の強化

- 英語でマーケティングプランを競う全国大学生マーケティングコンテストや、学内ビブリオバトル（知的書評合戦）などを開催する。
- 授業やゼミにおいて、学生が論理的・効果的に発表する能力を養う機会についての現状把握を行う。
- 教員ニーズを踏まえ、第2AV教室（LL教室）の情報メディア設備を更新整備する。

2 開かれた大学院教育

(1) 大学院教育の充実

- 高度職業人を養成するための履修制度として、修士課程における課題研究コースの制度設計を完成させ、学則改正などを行う。
- 社会人の受入に関する制度設計の基本方針を検討する。

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は2011年度末までの実績値)

専攻語学のガイドライン策定	2013年度 新規実施
---------------	----------------

・語学授業ガイドラインの整備数
(2011年度2種類→5種類(全学科の専攻語学に整備を完了))

・図書館の入館件数
(2011年度164,545件→増加)

・全国大学生マーケティングコンテストの参加大学数
(2011年度13大学→増加。全国大会として定着を図り、学生に質の高い研鑽機会を提供する)

・国際コミュニケーションコース修了生のTOEICスコア
(2011年度平均903点→900点超の維持)

<p>(2) 研究者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東京外国語大学との第4回合同セミナーや、海外の国際会議発表助成制度を実施する。 ○天津外国語大学（中国）とのダブルマスター制度を実施するとともに、モナッシュ大学（オーストラリア）と通訳翻訳分野における連携を協議するなど、新たな提携先を検討する。 <p>3 教育制度の継続的改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラムの運営を行い、運営上の課題点への改善や充実を図る。 ○授業評価アンケートなどFD活動を推進する。 <p>4 入試制度の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2014年度後期入試制度の変更について、受験者への広報を行う。 ○推薦入試の全国枠の2010年度新設以降の結果を検証する。 <p>5 学生への生活支援と進路・就職支援</p> <p>(1) 学生への相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たに、大学生活への満足度や生活実態に関する学生調査を実施する。 ○学生相談室、保健室などの運営により、学生への相談支援を適切に行う。 <p>(2) 就職支援の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生のキャリア形成支援を拡充し、学生インターンシップの派遣先を開拓するとともに、新たに神戸市男女共同参画課と連携して女性のキャリアデザインを考える機会を提供する。 ○TOEICスコアアップ支援のため、1年生無料受験制度の活用を促進する。 ○内定獲得支援のため、企業の内定時期の通年化を踏まえて、4月以降も学内の企業採用説明会を開催するとともに、大学院生の就職意向調査を新たに実施する。 	<p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は2011年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・海外の国際会議発表助成制度の利用者数（博士課程） (2011年度2件→2013年度3件)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・総志願者倍率 (第1期年度平均4.6倍→概ね4倍以上の水準の維持)</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="width: 70%;">大学独自の学生調査の導入</td> <td style="width: 30%;">2013年度 新規実施</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・就職内定率 (2011年度97.1% (全国93.6%) →全国平均に比べ高水準の維持)</p> <p>・卒業生の就職先等の把握率 (2011年度100%→維持)</p> <p>・インターンシップ派遣数（大学あっせん分） (2011年度16団体29名→2013年度34名)</p> <p>・TOEIC受験者数（1年生） (2011年度326名→増加)</p> </div>	大学独自の学生調査の導入	2013年度 新規実施
大学独自の学生調査の導入	2013年度 新規実施		

第2 高度な学術研究の推進

1 外国学の研究拠点としての役割の充実

(1) 大学独自の研究プロジェクト

- 国際会議やシンポジウムの開催を大学が支援するための制度を新たに整備する。
- この支援対象となる研究プロジェクトを選定する。

(2) 外部資金を活用した研究活動の拡大

- 教員や客員研究者の若手研究者を主な対象として、新たに外部講師による科研費申請の講演会を行う。
- 学内の共同研究班事業をもとに科研費の申請を行うとともに、外部資金を活用した国際会議やシンポジウムの開催促進策を検討する。

(3) 外国学研究所事業の充実

- 学内の共同研究班事業を活性化するための方策を検討する。
- 神戸研究学園都市大学交流推進協議会（ユニティ）の共同研究班事業に申請する。

2 研究成果等の公表の促進

- 学術論文などを保存・公開するリポジトリシステムの本格実施を開始する。
- 学外から招へいた研究者や客員教授による講演会などを可能な限り一般市民に公開する。

3 海外の研究機関との学術提携

- 新たな学術提携先の開拓を行うとともに、既存の提携機関との協定更新を検討する。

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は 2011 年度末までの実績値)

- ・科学研究費補助金に関わる総件数と研究者の実人数（各年度の受入及び新規申請の合計）
(2011 年度 80 件（うち研究代表者 44 件）、49 名（うち研究代表者 37 名）→増加)
- ・大型科学研究費補助金（基盤 A 又は B）の新規申請件数
(毎年度 1～2 件申請)

リポジトリの本格運用	2013 年度 新規実施
------------	-----------------

- ・市民を対象にした講演会の開催件数
(第 1 期年度平均 2 件→増加)

- ・海外の研究機関との提携数
(2011 年度 5 件→2013 年度 6 件)

第3 地域貢献

1 市民の生涯学習意欲への対応

(1) 社会人学生の受入

- 第2部英米学科の社会人特別選抜などで社会人学生を受け入れる。
- 科目等履修生制度をより使いやすい制度に見直し、学生募集を行う。

(2) 市民の生涯学習機会の提供

- 講演会形式の市民講座と、少人数制で連続講座のオープン・セミナーを開講し、広報先を拡大する。
- 市民を対象にした講演会を開催する。
- 図書館の市民利用制度の利用期間を拡充する。

2 神戸市の教育拠点としての役割の充実

(1) 小中高校の英語教育の支援

- 2013年度施行の高校の新学習指導要領を踏まえた中高英語教員スキルアップ研修や、小学校外国語活動基本研修、オープンクラス事業を実施する。
- 小学生の外大訪問や中学生イングリッシュスクール、高校訪問などに加え、中学生イングリッシュフェスティバルを秋季に開催する。
- 兵庫県高校生英語ディベートコンテストの本学開催を、兵庫県教育委員会及び神戸市教育委員会とともに支援する。

(2) 高大連携、大学間連携の推進

- 地域の高校との教員や学生間の教育交流を行う。
- ユニティにおける他大学との単位互換や職員研修、大学運営の情報交換などを行う。

3 語学教員等の輩出

- 教職科目の履修学生に採用試験の受験を促すため、履修条件などを見直し、学生に周知する。
- 教職課程の学生に、担当教員や採用試験合格者などと日常的に交流できる教職サロンを提供する。

新規事業の計画年度と参考指標

(参考指標は2011年度末までの実績値)

- ・オープン・セミナーの延べ受講者数
(第1期年度平均156名→増加)
- ・市民講座の延べ受講者数
(第1期年度平均336名→維持)
- ・市民対象の講演会の開催件数
(第1期年度平均2件→増加)
- ・図書館市民利用制度の開放日数
(2011年度110日→増加)

- ・小中高校の英語教育支援事業
(2011年度6件→増加)
※6件は、小学校外国語活動基本研修、中高英語教員スキルアップ研修、オープンクラス事業、小学生の外大訪問事業、中学生イングリッシュスクール事業、近隣高校への教員・学生派遣事業

- ・教員免許取得者数(小中高校)
(第1期年度平均70名→維持)
- ・教員採用者数(非常勤を含む)
(第1期年度平均16名→維持)

<p>4 ボランティア活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際支援、教育支援、地域交流など、多様な学生ボランティア活動への参加を促進する。 ○大規模災害時の学生ボランティア活動への大学の支援のあり方を検討する。 ○スクールサポーターやイングリッシュサポーターなどとして、学校現場に学生を派遣する。 <p>5 国際都市神戸への貢献</p> <p>(1) 神戸市の国際交流事業などへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○神戸市の親善協力都市である大邱市（韓国）の大邱国際大学生フェスティバルに学生を派遣する。 ○神戸市などが行う国際交流事業や国際スポーツ大会などへに通訳ボランティアとして学生を派遣する。 ○国際都市神戸への関わりや貢献のあり方について、学長が中心となって本学が果たす意義と内容についての教職員間の共通認識を深めるとともに、今後の方向を検討する。 <p>(2) 地元企業や地域への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生や教職員の多様な活動を通じて、地域の企業や団体との連携や交流を推進する。 ○地域の区役所や経済団体、国際機関などを対象に新たな事業提携先を開拓する。 ○その他、さまざまな地域貢献活動を行う。 	<p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は 2011 年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動への派遣学生数 (ボランティアコーナー、国際交流センターの幹旋分の合計) (2011 年度 465 名→増加) ・ スクールサポーターの派遣学生数 (2011 年度 33 名→維持) ・ イングリッシュサポーターの派遣学生数 (2011 年度 7 名→増加) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の審議会委員や生涯学習の講師などを務める延べ教員数 (2011 年度 15 名→増加) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の行政や団体などとの提携数 (2011 年度 1 件→2013 年度 3 件) ※1 件は、神戸市教育委員会 </div>
--	--

第4 国際交流

1 留学支援制度の拡充

- 新たに留学支援基金を創設するなど、長期留学の経済的支援を拡充する。
- 交換派遣留学制度を実施するとともに、留学希望者の学内選考手続きの利便向上を図る。
- 海外留学と就職活動の両立支援のためのパネルディスカッションを実施するほか、留学要件となる TOEFL 及び IELTS の受験支援を拡充する。

2 外国人留学生の受入れと学内の国際交流機会の拡充

(1) 日本語プログラムの充実

- 春入学、秋入学の2学期制の日本語プログラムを開講し、留学生を受け入れる。
- 交換留学の人数枠の増加を踏まえ、安定した留学生受入体制づくりのための日本語プログラムのカリキュラムを再検討する。

(2) 外国人留学生への支援

- 日本語プログラムの留学生の生活及び日本語会話支援を行うとともに、住居支援の拡充を検討する。
- 学内で、英語、中国語、日本語など多言語のチャット事業を実施するとともに、学生ボランティアと連携した国際交流事業を行う。

3 海外の教育機関との交流・連携の拡充

- 各学科の地域を中心に学生の交換交流提携先を開拓する。
- ロシア、中国、イスパニア学科での交換教員受入を継続するとともに、国際関係学科又は英米学科でも交換教員などの受入を検討する。
- 海外の大学や大学院とのダブルディグリー制度やダブルマスター制度などを検討する。

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は2011年度末までの実績値)

留学支援基金(仮称)の設置	2013年度
	新規実施

- ・長期留学者数(交換派遣留学)
(2011年度31名→2013年度34名)
- ・短期留学者数(派遣留学)
(2011年度62名→長期留学者数の動向との関連を確認する)

- ・日本語プログラムの留学生数
(2011年度9名→増加)
- ・交換留学の人数枠
(2011年度3名→増加)

- ・留学生の生活及び日本語会話支援を行う延べ学生数
(2011年度27名→増加)
- ・チャット事業の延べ参加学生数
(2011年度1,224人→増加)
- ・外国人留学生数(大学全体)
(2011年度87名→増加)

- ・交換交流協定の締結大学数
(2011年度23件→2013年度29件)
- ・海外から招へいた研究者等による講演等件数
(2011年度12件(※)→増加)
※交換教員4名、外国人研究者の招へい8件

第5 柔軟で機動的な大学運営

1 自律的・効率的な大学運営

(1) 運営体制の改善

- 大学運営において、教員の活発な議論を促すとともに運営の透明性を確保するため、学長懇談会を定期的に行う。
- 中期計画の推進体制を確保するため、部会などの運営状況や組織体制の適切な見直しを図る。

(2) 事務などの効率化・合理化

- 事務事業改善を一層促進するため、職員の自発的な検討及び提案を支援するための制度を設ける。
- ペーパーレス会議を拡大する。
- 事務執行体制や事務改善状況を点検する。

(3) 大学データの蓄積及び活用

- 本学における IR (インスティテューショナル・リサーチ) 機能の方向性や、蓄積するデータの種類、その収集方法などを検討する。
- 中期計画の進捗確認のために各種指標を有効に活用する。

2 人事の適正化

(1) 教職員人事の適正化

- 各専門分野で研究業績の優れた教員を採用する。
- 特色ある教育研究体制の充実のため、新たな客員教員の委嘱を検討する。
- 市派遣職員を 2 名程度削減し、固有職員の採用など適正な職員配置に努める。

(2) 人材育成の推進

- 固有職員の採用時及び 3 年次研修を行うとともに、職務に必要な各種研修を受講させる。
- 教員の在外研究制度や特別研修制度を実施する。

3 財務内容の改善

(1) 自己財源の確保

- 70 周年記念事業に向けた寄付金の呼びかけを始める。あわせて、寄付金納付の利便向上を検討する。
- 授業料収入の確保のため、引き続き未納者対応を適切に行うとともに、納付困難者に新たな支援を実施する。
- 施設の外部貸付を一層促進する。

新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は 2011 年度末までの実績値)

学長懇談会の設置	2013 年度 新規実施
----------	-----------------

・学外の有識者の役員などへの任命 又は委嘱数 (5~6 名程度)
--

・ペーパーレス会議の拡大 (2011 年度 7 会議 68 回→増加)
--

IR をテーマにした役員会の開催	2013 年度 新規実施
------------------	-----------------

大学独自の学生調査の導入	2013 年度 新規実施
--------------	-----------------

・客員教員数 (2011 年度 4 名→増加)
・市派遣職員数 (2011 年度 30 名→減少 (2 名程度))
・固有職員数 (2011 年度 13 名→増加)

・外部研修受講件数 (延べ職員数) (2011 年度 125 名→維持 (業務に必要な研修を適切に受講))
--

・施設の外部団体利用料収入 (2013 年度末までに 8 百万円以上)
・寄付金収入 (2013 年度末までに 16 百万円以上)

<p>(2) 予算の適正化及び効率的な執行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員人件費の計画的な削減により、総人件費の適正管理に努める。 ○他大学との物品の共同購入を新たな実施するなど、効率的な執行に務める。 <p>(3) 資産の運用管理の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体育館の外壁改修や個人研究棟エレベータ改修など、大規模老朽改修工事を行う。 ○職員と学生による節電パトロールなど、エネルギー使用の適正管理を行う。 <p>4 点検及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第 1 期の業務実績評価を受けるとともに、評価結果への対応を行う。 ○2010 年度に受審した大学評価結果への対応状況の点検に着手する。 <p>5 情報発信の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパスに加え、地域の高校を主な対象にした入試説明会を新たに実施するとともに首都圏などのガイダンス参加を拡充する。さらに、大学院の入試説明会を新設する。 ○大学ロゴの活用を始めるとともに、記者資料提供などにより大学の活動情報を広く社会に発信する。また、卒業生向けの大学情報の発信を拡充する。 ○海外への情報発信のため、ホームページ上の動画コンテンツに英語版を追加するとともに、英語版及び中国語版の大学案内を作成する。 <p>6 その他業務運営</p> <p>(1) 環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境マネジメントシステムを運用し、KEMS ステップ 2 を更新する。 ○大学周辺のクリーン作戦への学生参加を呼びかける。 <p>(2) 危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学内駐車場などの監視機能の強化を検討する。 ○学生の海外留学に係る危機管理の啓発を行うとともに、災害等発生時に迅速な安否確認を行う。 	<p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は 2011 年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・職員人件費（退職金除く） (2013 年度に、2011 年度比 1.6% 程度の削減) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・総エネルギー使用量 (2010 年度比 10%削減の水準 (465KJ) を維持) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ総閲覧件数 (2011 年度 374 万件→増加) ・オープンキャンパス来場者数 (2011 年度 4,200 名 (入学定員の約 10 倍) →維持) ・高校等への入試広報件数 (2011 年度 39 件→増加) ・記者資料提供件数 (2011 年度 25 件→増加) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・KEMS ステップ 2 (神戸環境マネジメントシステム) の目標達成率 (全項目の目標達成を目指す) </div>
--	---

<p>(3) 安全管理の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全衛生委員会を定期的に開催し、教職員及び学生の安全管理の取組を推進する。 ○大学施設・設備の安全点検を実施し、緊急補修などの対応を行う。 <p>(4) 教育研究環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第 2 学舎の増設などの教育研究環境の充実について基本設計を行うとともに、図書館ロビーの再整備の先行実施を検討する。 ○学生ニーズの大きいトイレ改修について、当面の改修計画を検討する。 ○情報基盤システムの更新に向けた検討を行う。 <p>(5) 創立 70 周年記念事業の企画及び実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学内教職員による実行委員会を設置し、70 周年記念事業としての取組内容を企画する。 ○同窓会、保護者会、学生団体、大学生協などを構成員とした連絡協議会を立ち上げる。 <p>(6) 内部統制</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種の内部監査を年度計画に基づき実施する。 ○前年度の監査結果を踏まえた業務改善状況を点検する。 	<p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は 2011 年度末までの実績値)</p>
---	--

第6 予算、収支計画及び資金計画

1 予算（2013年度）

別紙

2 収支計画（2013年度）

別紙

3 資金計画（2013年度）

別紙

第7 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

3億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすることも想定される。

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第9 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

第10 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 積立金の使途

第一期中期計画期間中に生じた積立金は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

2 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし

予算、収支計画及び資金計画

1. 予算（2013年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1, 163
自己収入	1, 218
授業料・入学金・検定料収入	1, 153
その他	65
受託研究等収入	1
目的積立金取崩	10
計	2, 392
支出	
業務費	2, 280
教育研究経費	265
一般管理費	177
人件費	1, 837
受託研究費等経費	1
施設・設備整備費	112
計	2, 392

2. 収支計画（2013年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
費用の部	2, 3 7 1
經常費用	2, 3 7 1
業務費	2, 1 0 4
教育研究経費	2 6 6
受託研究費等	1
役員人件費	6 8
教員人件費	1, 3 2 5
職員人件費	4 4 4
一般管理費	1 7 7
減価償却費	9 0
臨時損失	0
収入の部	2, 3 7 1
經常収益	2, 3 7 1
運営費交付金収益	1, 0 8 3
授業料収益	9 3 1
入学金収益	1 8 6
検定料収益	3 7
寄附金収益	1 1
受託研究等収益	1
財務収益	2
雑益	3 0
資産見返運営費交付金等戻入	8 2
資産見返補助金等戻入	1
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	4
臨時利益	0
純利益	0
総利益	0

3. 資金計画（2013年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
資金支出	3, 0 1 8
業務活動による支出	2, 2 5 0
投資活動による支出	1 4 2
財務活動による支出	0
翌年度への繰越金	6 2 6
資金収入	3, 0 1 8
業務活動による収入	2, 3 5 8
運営費交付金による収入	1, 1 6 3
授業料・入学金・検定料による収入	1, 1 5 3
受託研究等収入	1
寄附金収入	1 1
その他の収入	3 0
投資活動による収入	3
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	6 5 7